

第 11 回全国弓道指導者研修会



川平俊博講師による初心者指導法

第 11 回全国弓道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本弓道連盟、後援＝スポーツ庁）を 2 月 17 日～19 日の 3 日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにて、特別講師 1 名、主任講師 1 名、講師 2 名・助講師 3 名、参加者 24 名が集まり実施した。

本研修会は、日本全国で弓道を指導する中学、高等学校の教員、及び社会体育指導者を対象に、我国の伝統と文化に立脚した理論と実技の研修会を実施し、「弓道」の理解を深め、専門的な知識・技術・指導法の充実を図り、もって全国的な弓道指導者の養成と資質向上に資する目的で行われた。

■1 日目（2 月 17 日）

開講式では、浅野有三全日本弓道連盟副会長が挨拶に立ち、「技量の研鑽のみならず、指導者としていかにあるべきか、また、生徒にどのように指導すべきかを考えて臨んでほしい。3 日間をとおし、技能・理論・倫理観について改めて学びを深めていただき、共に研修に臨んだ参加者とは、終了後も交流が続くことを期待いたします」と述べた。続いて、永嶋信哉日本武道館振興部長が、「指導法は、武道修行において核となる部分。日本武道館と各武道団体共催で行う指導法研究事業では、先生方が指導法を練り、その結果を本研修会で実践することとなる。参加する様において

は、本研修会で学ぶ指導法で間違いない、という自信を持って受講していただきたい」と挨拶。

その後、高橋文彦主任講師が講師を代表して挨拶に立ち、「今回の研修会は、段位を取得している方もいれば、初めて弓を握る方もいるというように、参加者の個人差が激しい。しかし、もし研修時に内容が理解できなかったとしても、それぞれの地元を持ち帰っていただき、これから弓道に携わっていく際のきっかけや糧にさせていただければ」と述べた。

開講式終了後、『中学校武道必修化指導書 DVD』の武道編を視聴。続いて、全日本アーチェリー連盟副理事長・強化部長・ナショナルヘッドコーチを務める田中伸周特別講師による「弓道とアーチェリー～佐賀から全国へそして世界へ～」の講演が行われた。自身の指導歴や弓道とアーチェリーの同じ点・違う点をもとに講義を進め、場を清めることでわかる「気づき」を大事にすること、指導対象の「心のコップ



田中伸周特別講師

を上に向ける」ことが重要と説明した。指導者が生徒に対して感情的に叱ったりすることでコップが下向きになると、言葉が心に入っていない。技術を教

える前に、まずは上向きのコップを準備することを心掛けてほしいと呼びかけた。また、講義の最後に「学ぶことをやめたら教えることをやめなければならない」と紹介し、参加者にたゆまぬ努力をするよう伝え、講義は終了した。

次に、「弓具・射法八節解説」について、高橋主任講師が解説を行った。はじめに2人組となり、お互いの射法八節の動作を、段階ごとにスマートフォンやタブレットで撮影した。その後、プロジェクターを用いて射技のポイントを細かく説明する際、先ほど撮影した自身の画像を見ながら、注意すべき点を各自に確認させた。高橋主任講師は「理想的な会にするため正しい大三を、そのために正しい打起を、というように逆算して考えるように」と説明し、講義の最後に「指導者によって教え方が違ったとしても、理論に基づいた説明をし、根拠を持ったうえで導く必要がある」と述べた。

続いて、5班に分かれてのグループディスカッションが行われた。前半はコンプライアンスを題材に、後半は学校弓道で何をどのように伝えるかを題材に協議した。意見の集約にはオンライン掲示板アプリ「Padlet」を使用し、グループごとに設定した掲示板に、各自の意見を反映できるよう工夫して進められた。どの班も積極的に意見を交わした後、班の代表者が協議内容の発表し、講師陣が講評を述べた。

■2日目 (2月18日)

午前6時30分からの準備運動後、大道場に仮設射場設営、巻き藁の設置等を分担して行った。参加者たちが一致協力して作業したため、当初、朝食の前後に予定していた設営が朝食前に終了した。朝食後、高橋主任講師・齋藤往子講師・川平俊博講師らによる「初心者指導法」の講義を行った。はじめに齋藤講師が全日本弓道連盟刊行『学校体育「武道」指導資料 弓道指導の手引』や、手作りの体配グッズの紹介を行った。続いて川平講師が、安全管理・足運び・高校弓道部のリーダー研修会の紹介を行った。高橋主任講師から、学習性無気力・手続きバグの紹介など、弓道指導における注意点の説明があった。

続いて、AB班（初心者・初心者指導、学校授業対応）、C班（学校部活動対応。C1とC2に区分）の3班に分かれ、大道場と弓道場で目的別研修を行った。



紐を使って射法八節を学習

AB班・C1班合同で行った最初のコマでは、各自の自己紹介の後、初心者以外が弓を引き、自分以外の参加者の良いところを付箋に記した。最後に、本人にそれを伝え、講師が講評を述べた。午後は各班に分かれ、それぞれのレベルに応じた指導を丁寧に行った。研修の終わりには、朝に設営した仮設射場を全員で撤去した。

■3日目 (2月19日)

最終日は2日目と同様、早朝に準備体操を行い、午前の研修では、研修の締めくくりとして、初心者4名を振り分けた4班で射会を行なった。期間中に学んだ体配や射技などを確認しつつ、弓道の楽しさを実感することとなった射会では、優秀な成績の班に対して講師から賞品が贈られた。



初心者は距離の近いアーチェリーの的を狙う

閉講式では、和田健日本武道館振興部振興課長から、受講生を代表して、今井健夫あいち情報専門学校高等課程教諭に修了証を授与し、高橋主任講師が講師講評を行って、全日程を終了した。